

地域づくりの目標

◆田原市街地における都市機能施設の集積による生活利便性の向上

◆田原市街地での定住促進と地域コミュニティの存続

◆三河田原駅周辺における新たな賑わいの創出

地域の将来構造

○都市拠点（田原市街地）

田原市街地は、市の中心をなす拠点として、行政・商業・業務・医療・教育・交通機能など多様な都市機能が集積しており、今後もこれらの機能の充実を図ります。

また、半島全体や他市からの人口の受け皿としての役割を担うべく、居住機能の強化や市街地の質の向上を図ります。

○産業集積拠点（臨海市街地）

臨海市街地は、県下でも有数の工業生産地域となっているため、今後も産業の集積を促進するとともに、職住近接型の居住環境の充実を図ります。

○観光・交流拠点

全体構想において、サンテパーク田原や太平洋沿岸及び臨海部沿岸については、観光・交流拠点と位置づけており、地域の貴重な資源であることから、観光・交流拠点としての整備を図ります。

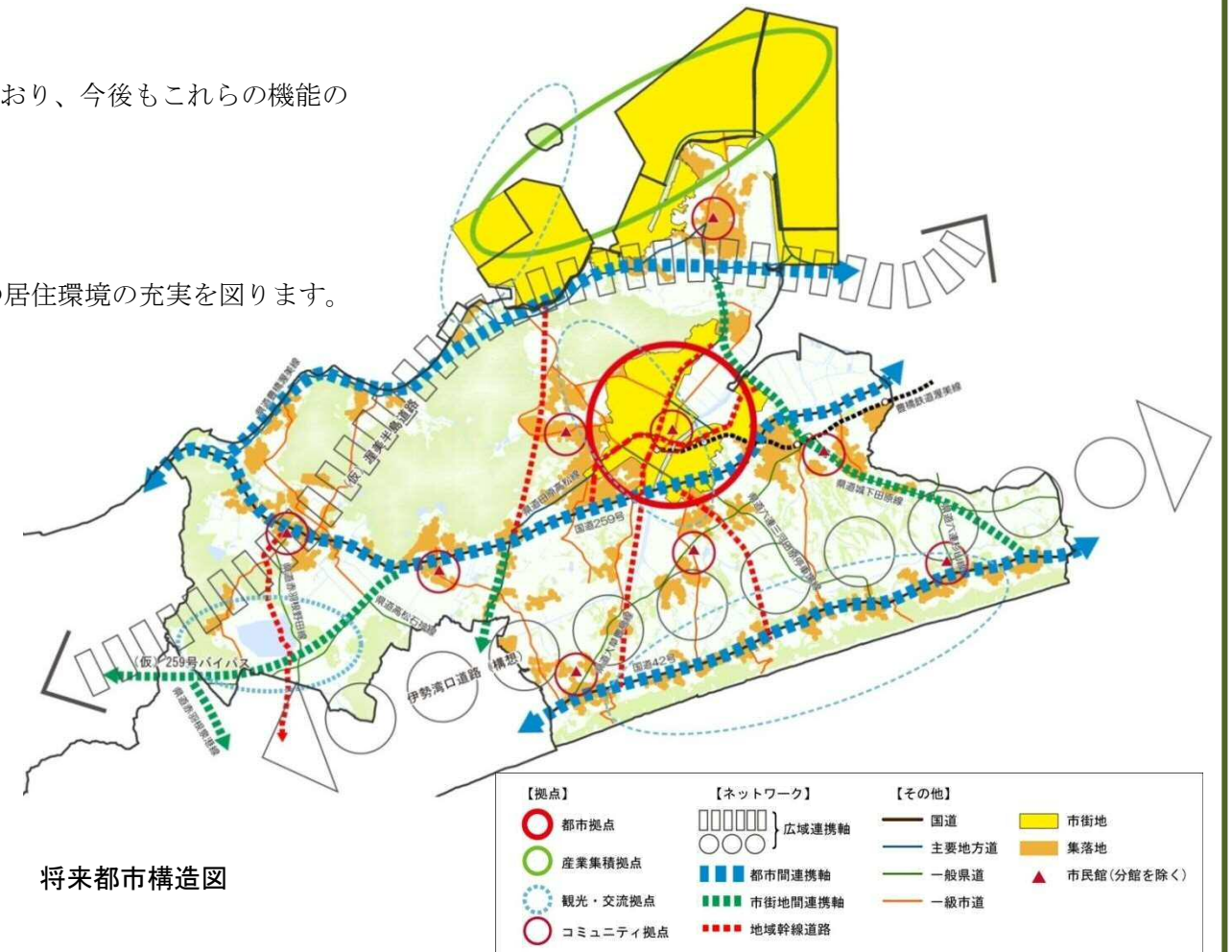
○コミュニティ拠点

田原地域の9か所の市民館を中心とした地区は、全体構想においてコミュニティ拠点として位置づけており、この拠点を中心として地域主体のまちづくりを計画的に推進することにより、地域資源を活用した魅力の向上を図ります。

○道路ネットワーク（軸）

都市間連携軸・・・国道259号、国道42号、(主)豊橋渥美線
 市街地間連携軸・・・(仮)国道259号バイパス、(県)城下田原線
 地域幹線道路・・・(都)田原駅前通り線及びその延伸区間、(都)田原中央線
 (都)神戸蔵王線及びその延伸区間、(都)姫島港線
 (仮)大草白谷線、(県)赤羽根野田線

※市街地や地域をつなぐ主要道路を地域幹線道路として位置づけます。



地域のまちづくり方針

①土地利用

- ・田原市街地は、本市の中心である都市拠点としてふさわしい都市機能の集積を図ります。
- ・三河田原駅周辺において、新たな商業等の集積を図るとともに子育て環境の充実を図ります。
- ・市街化区域内の低・未利用地の利用促進を図ります。
- ・「空き家・空き地バンク」制度の活用等による住宅・宅地の活用を図ります。
- ・市街化区域に隣接した地域の住宅供給を検討します。
- ・臨海市街地は、産業の集積を図るべき拠点として、交通アクセスの改善等を推進し、企業誘致を積極的に進めます。また、日常における生活利便施設の誘致を図ります。
- ・集落内の既存宅地・住宅の活用などを行うとともに、集落内の世帯分離のための住宅地、田舎暮らしニーズへの対応を進め、人口減少の抑制を図るための住宅地としての土地利用を図ります。
- ・人口の維持を図るため、現在各集落にある機能の存続を図り、地域コミュニティ維持のための土地利用を図ります。
- ・農地及び森林については、保全することを基本とします。

②道路

- ・都市間連携道路の主要地方道豊橋渥美線（(都)浦片浜線）の早期整備を要望します。
- ・市街地間連携道路の(仮)国道259号バイパス、(仮)田原城下線の早期整備を要望します。
- ・地域幹線道路の(都)田原中央線、(都)田原駅前通り線の早期整備の要望及び(県)赤羽根野田線の走行環境の向上を目指します。
- ・都市計画道路網の見直しを図り、新たに地域幹線道路として(都)田原駅前通り線及び(都)神戸蔵王線の延伸、(仮)大草白谷線の整備を検討します。
- ・緊急車両の通行や災害時の安全な避難において支障をきたすおそれがある狭隘道路の早期解消を目指します。
- ・集落内の主要な道路は、一定以上の幅員を確保し、生活環境の改善を図ります。

③公共交通

- ・豊橋鉄道渥美線や市街地バスの利便性の向上を図るとともに、駅や停留所における待合環境の向上を図ります。
- ・市、交通事業者、地域コミュニティ及び市民の連携、協働により、利用者のニーズに合った運行水準を確保します。

④生活利便施設

- ・田原市街地は、田原市の中心をなす都市拠点として、また、居住地としての魅力を向上させるため、生活利便施設の一層の集積を図ります。
- ・臨海市街地は、田原市街地と結ぶ幹線道路及び公共交通によるネットワークの強化を図るとともに、生活利便性の向上に資する施設の集積を図ります。
- ・生活利便施設等が集積している地区については、施設を維持するための方策を検討します。
- ・田原市街地においては、居住者や来訪者のニーズに対応した駐車場を確保します。

⑤観光・交流

- ・農業・収穫の体験メニューや地産地消レストランなど、本市農業を観光に結びつけた拠点である農業公園サンテパークたはらを活用した観光ルート開発を推進します。
- ・道の駅めっくんハウスについては、トイレ環境の再整備、観光案内機能の充実、休憩所の改善等を順次実施します。また、市内の道の駅をネットワーク化することにより、道路利用者に休憩・情報等のサービスの提供や市内物産の紹介、販売等を行い、市内及び他地域との交流の促進を図ります。
- ・半島全体の風景を鑑賞しながら周遊できる「渥美半島菜の花浪漫街道」においては、風景、花の活用、サイン・標識なども含めた整備を図ります。
- ・市内の港湾・漁港などを活用して海を楽しむことのできる環境整備を図ります。県有施設に関しては、県との連携の下、整備・促進していきます。また、三河湾プレジャーボート受け入れ施設の整備を検討します。
- ・自然公園区域内に汐川干潟トレイルや谷ノ口森林レクリエーション公園等の自然体験・観察施設等を整備し、自然とのふれあいを増進させるとともに、自然を学ぶことのできる場の充実を図ります。

⑥景観

○重点整備候補地区

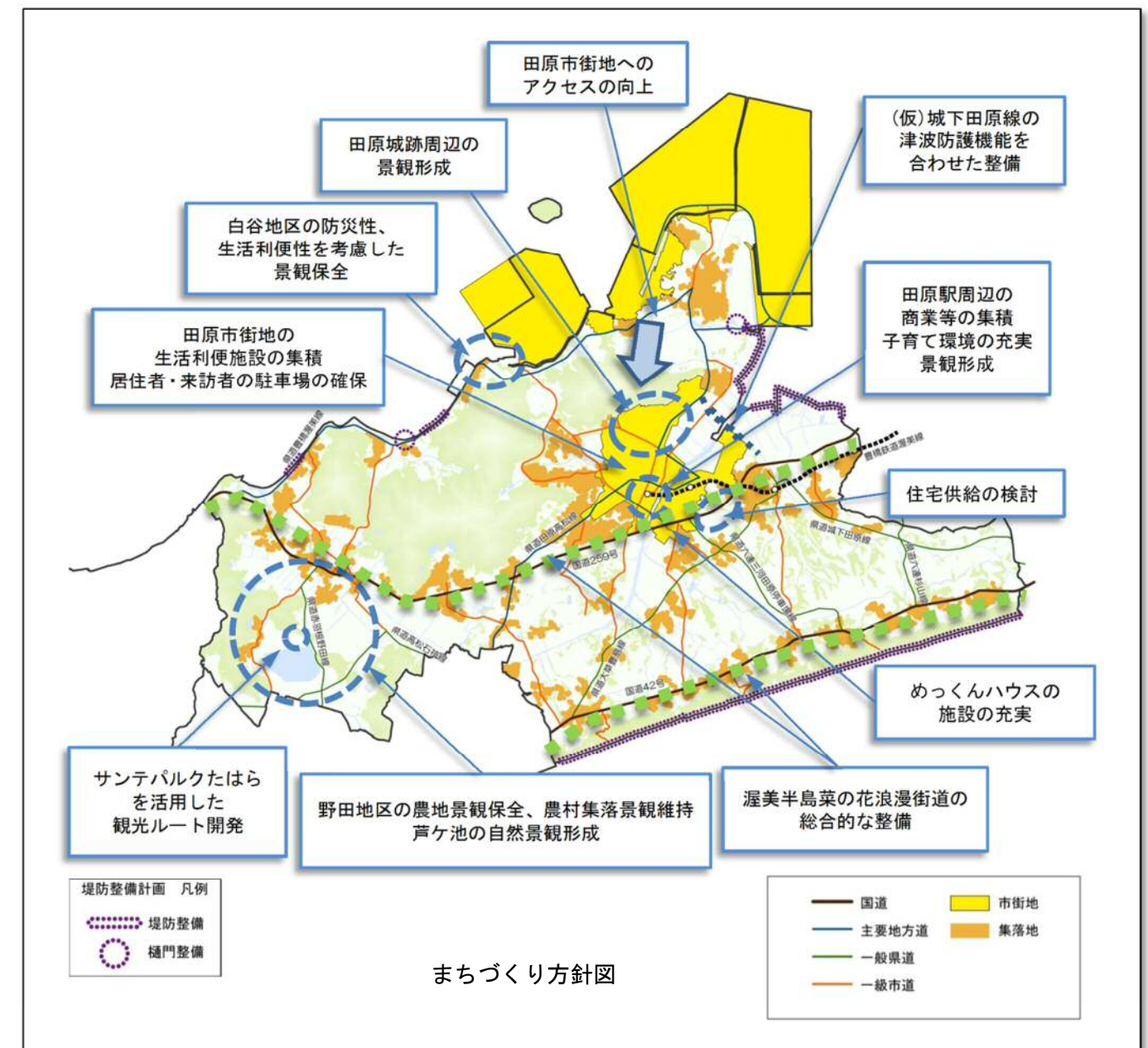
- ・田原城跡周辺地区については、城下町としてまとまった緑や生垣、古い趣きを持った建物の保全を図るとともに、歴史的地域に馴染むよう古い道沿いの建物についての形態意匠のルール化による落ち着いたまち並みの形成を図ります。
- ・三河田原駅周辺地区については、中心市街地としてふさわしい地区となるよう屋外広告物のルール化や、緑化の推進、ファサードのルール化、駐輪場の整序等緑豊かで魅力ある景観の形成を図ります。
- ・白谷地区については、防災性と生活利便性に配慮しながら、特徴的な風情の景観の保全を図ります。
- ・野田地区については、広がりのあるまとまった農地景観の保全、区域内の農村集落景観の維持、芦ヶ池については自然な景観に調和する景観の形成を図ります。

○その他

- ・汐川及び清谷川沿いの自然環境を活用した景観形成を図ります。

⑦地震・津波防災

- ・(県) 城下田原線について、土盛り、嵩上げ等により、津波防護機能を合わせ持った道路整備を促進します。
- ・防波堤・防潮堤、海岸堤防等の耐震化、嵩上げ、粘り強い構造への改良及び背後地整備等を図ります。
- ・災害時に早期に復興できるよう、予め住民と協働でまちづくりに関する計画の策定を検討します。



地域づくりの目標

◆太平洋ロングビーチ周辺における観光・交流と一体的なまちづくり

◆サーファー等の移住による地域の活性化

◆赤羽根市街地の生活拠点機能の確保と地域コミュニティの存続

地域の将来構造

○市街地拠点（赤羽根市街地）

赤羽根市街地は、サーフィンのメッカである太平洋ロングビーチや道の駅あかばねロコステーションなど固有の観光資源があるため、これら観光資源と連携した市街地形成を図ります。

○観光・交流拠点

全体構想において、道の駅あかばねロコステーション、弥八島を含む、太平洋ロングビーチ周辺を観光・交流拠点と位置づけています。太平洋ロングビーチは日本を代表するサーフィンの聖地であることから、その特性を活かした拠点整備を図ります。

○コミュニティ拠点

赤羽根地域の3か所の市民館を中心とした地区は、全体構想においてコミュニティ拠点として位置づけています。この拠点を中心として地域主体のまちづくりを計画的に推進することにより、地域資源を活用した魅力の向上を図ります。

○道路ネットワーク（軸）

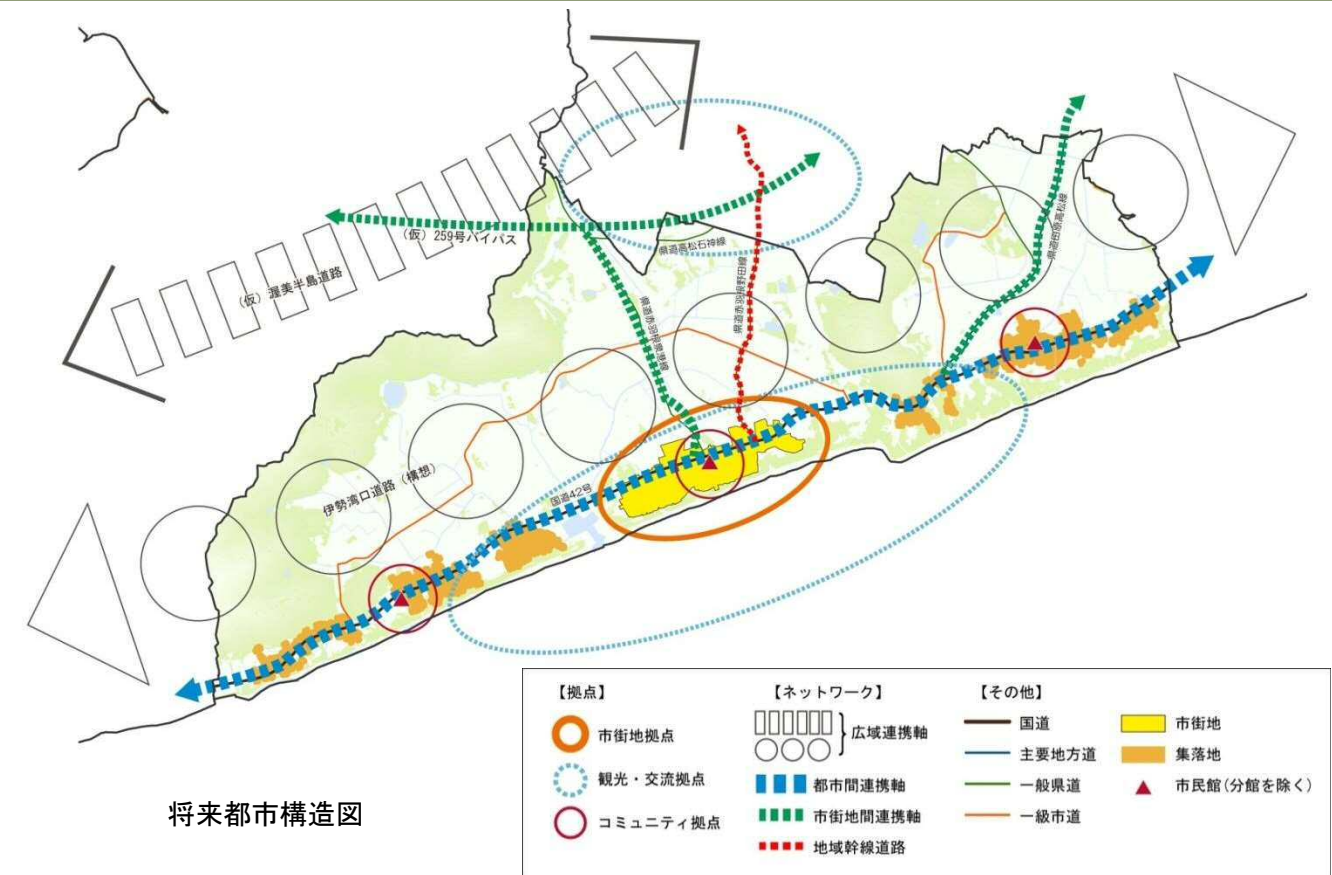
都市間連携軸・・・国道42号

市街地間連携軸・・・(仮)大草白谷線、(仮)国道259号バイパス

(主)田原高松線、(県)高松石神線、(県)赤羽根泉港線

地域幹線道路・・・(県)赤羽根野田線

※市街地や地域をつなぐ主要道路を地域幹線道路として位置づけます。



将来都市構造図

地域のまちづくり方針

①土地利用

- ・赤羽根地域は、サーフィンで有名な太平洋ロングビーチや道の駅あかばねロコステーションなど、観光・交流資源が多くあることから、観光・交流と一体的な土地利用を図ります。
- ・「空き家・空き地バンク」制度の活用等による住宅・宅地の活用を図ります。
- ・サーファーの移住を促進します。
- ・市街地内の低・未利用地の活用を図ります。
- ・土地区画整理事業によって、良好な住宅環境を確保します。
- ・人口の維持を図るため、現在各集落にある機能の存続を図り、地域コミュニティ維持のための土地利用を図ります。
- ・集落内の既存宅地・住宅の活用などを図るとともに、集落内の世帯分離のための住宅地、田舎暮らしニーズへの対応を進め、人口減少の抑制を図るための住宅地としての土地利用を図ります。
- ・農地及び森林については、保全することを基本とします。

②道路

- ・市街地間連絡道路の(仮)大草白谷線については、都市計画道路網の見直しを行い、整備を検討します。また、(仮)国道259号バイパスについては、早期整備を要望します。(主)田原高松線、(県)高松石神線、(県)赤羽根泉港線については、走行環境の向上を目指します。
- ・地域幹線道路の(県)赤羽根野田線については、走行環境の向上を目指します。
- ・緊急車両の通行や災害時の安全な避難において支障をきたすおそれのある狭隘道路の解消を目指します。
- ・集落内の主要な道路は、一定以上の幅員を確保し、生活環境の改善を図ります。

③公共交通

- ・ 集落内を走る豊鉄バス伊良湖支線について、利用者のニーズに合った運行水準の確保を図ります。

④生活利便施設

- ・ 市街化区域内への医療サービスの確保を図ります。
- ・ 観光・交流の活性化にともなう、訪問者の利用による生活利便施設の存続や、観光交流施設の日常生活における利用など、相乗効果による日常生活の利便性の向上を図ります。
- ・ 田原市街地が比較的近いことから、田原市街地の生活利便施設利用の利便の向上を図るための、道路及び公共交通によるネットワークの整備を図ります。
- ・ 赤羽根市民センター、赤羽根文化会館等の既存施設についての有り方を検討します。
- ・ 集落住民の日常生活を支える生活利便施設の整備に関しては、持続可能な地域づくりをめざし、住民の協働により、地域の資源を活かし、住民が中心となって運営する「小さな拠点」づくりの考え方を取り入れた、施設整備等の検討を行います。

⑤観光・交流

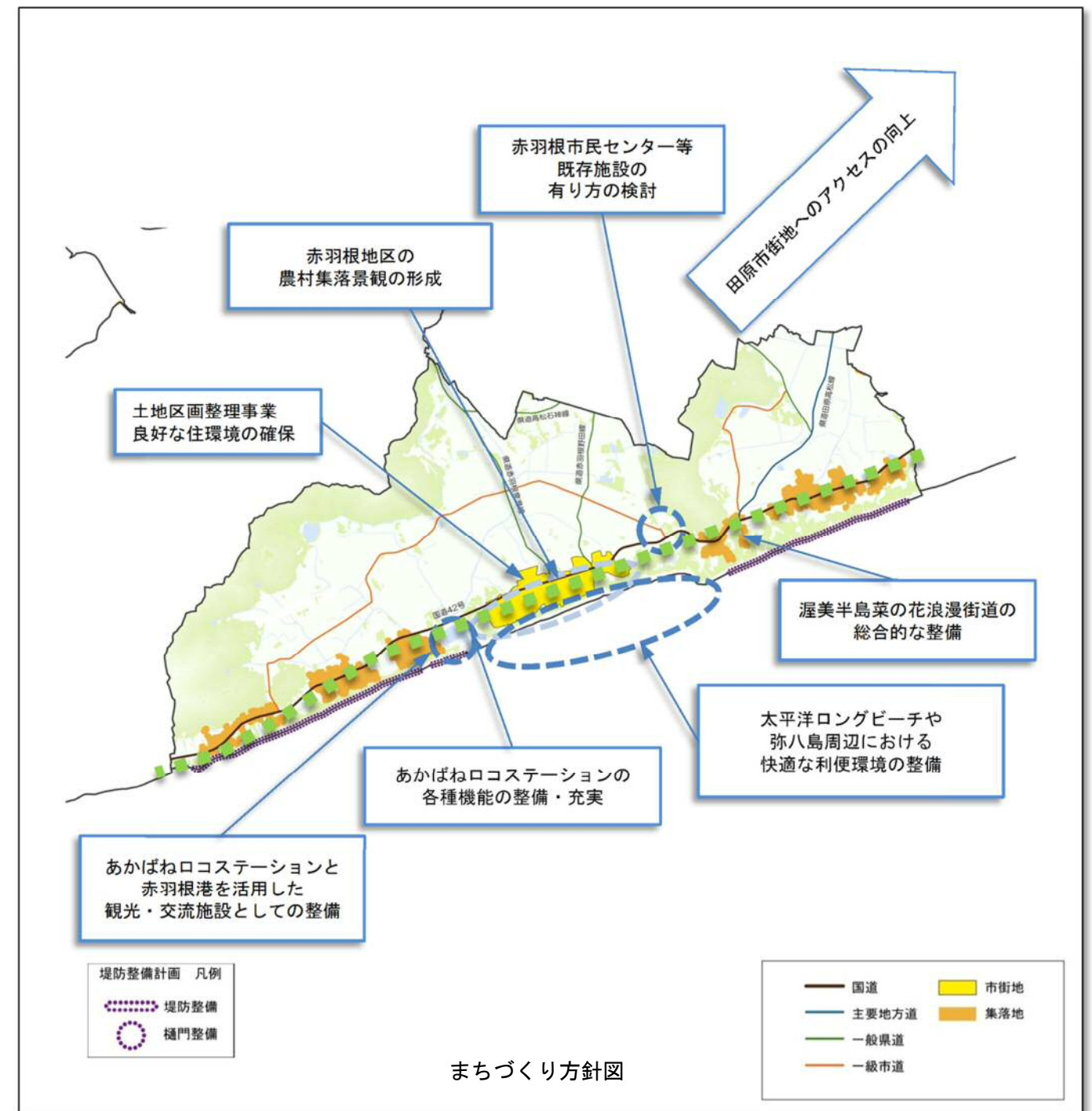
- ・ 太平洋ロングビーチについては、サーファーや釣り客が利用しやすいよう、環境整備を図ります。
- ・ 道の駅あかばねロコステーションについては、トイレ環境の再整備、観光案内機能の充実、休憩所の改善等を順次実施します。また、市内の道の駅をネットワーク化することにより、道路利用者に休憩・情報等のサービスの提供や市内物産の紹介、販売等を行い、市内及び他地域との交流の促進を図ります。
- ・ 道の駅あかばねロコステーションと赤羽根港を活用した観光・交流施設としての整備を図ります。
- ・ サーファー、釣り客の利用の多い弥八島周辺において、さらなる交流促進を図るための拠点整備を検討します。
- ・ 東京オリンピック候補種目であるサーフィン競技の誘致を目指します。
- ・ 半島全体の風景を鑑賞しながら周遊できる「渥美半島菜の花浪漫街道」においては、風景、花の活用、サイン・標識なども含めた整備を図ります。
- ・ 農業を体験できる施設の整備を検討します。
- ・ 温泉掘削の可能性、温泉活用ニーズ、温泉活用方策、費用対効果など様々な側面における検証を踏まえた上で、観光客向けの温泉施設開発の可能性を検討します。

⑥景観

- ・ 重点整備候補地区の赤羽根地区については、防災性と生活利便性に配慮して、狭い路地の修景や、趣きのある古い建物の保全と建て替え時の建物のルール化による落ち着いた農村集落の形成を図ります。

⑦地震・津波防災

- ・ 赤羽根漁港においては、津波防護施設等の整備を要望します。
- ・ 災害時における海岸地域からの円滑な避難のため、避難路の整備を図ります。



地域づくりの目標

◆伊良湖交流拠点を中心とした地域資源の活用による地域活性化

◆津波災害に対応した安全なまちづくり

◆福江市街地の生活拠点機能の充実と地域コミュニティの存続

地域の将来構造

○準都市拠点（福江市街地）

福江市街地は、都市拠点から距離があり、半島西部の生活の拠点となっているため、生活を支える都市機能施設を充実させ、渥美地域の中心にふさわしい市街地形成を図ります。

○観光・交流拠点

全体構想において、伊良湖港、道の駅クリスタルポルトが立地する伊良湖岬先端部を、市を代表する伊良湖交流拠点と位置付けています。また、表浜の海岸や福江港から福江漁港の一角を観光・交流拠点と位置付けています。これらの拠点は、本市を代表する観光・交流拠点であり、また地域の貴重な資源であることから、観光・交流拠点としての整備を図ります。

○コミュニティ拠点

渥美地域の8か所の市民館を中心とした地区は、全体構想においてコミュニティ拠点として位置付けており、この拠点を中心として地域主体のまちづくりを計画的に推進することにより、地域資源を活用した魅力の向上を図ります。

○道路ネットワーク（軸）

- 都市間連携軸・・・国道259号、国道42号、(主)豊橋渥美線
- 市街地間連携軸・・・(仮)国道259号バイパス
- 地域幹線道路・・・(県)豊橋渥美線、(県)和地福江港線、(県)小中山保美線
(市)土田伊川津線

※市街地や地域をつなぐ主要道路を地域幹線道路として位置づけます。



将来都市構造図

地域のまちづくり方針

①土地利用

- ・市街化区域内の低・未利用地の利用促進を図ります。
- ・「空き家・空き地バンク」制度の活用等による住宅・宅地の活用を図ります。
- ・人口の維持を図るため、現在各集落にある機能の存続を図り、地域コミュニティ維持のための土地利用を図ります。
- ・集落内の既存宅地・住宅の活用などを図るとともに、集落内の世帯分離のための住宅地、田舎暮らしニーズへの対応を進め、人口減少の抑制を図るための住宅地としての土地利用を図ります。
- ・福江市街地において、新たな賑わいの創出を図るため、再開発などの手法を検討します。
- ・津波被害が想定される区域については、地震津波に対し十分に考慮した土地利用を図ります。また長期的な視点から、緩やかな移転誘導を考慮した土地利用を検討します。
- ・市街化区域に隣接した地域の住宅供給を検討します。
- ・農地及び森林については、保全することを基本とします。

②道路

- ・市街地間連携道路の(仮)国道259号バイパスの早期整備を要望します。
- ・地域幹線道路の(県)豊橋渥美線、(県)和地福江港線、(県)小中山保美線、(市)土田伊川津線の走行環境の向上を目指します。
- ・緊急車両の通行や災害時の安全な避難において支障をきたすおそれのある狭隘道路の解消を目指します。
- ・集落内の主要な道路は、一定以上の幅員を確保し、生活環境の改善を図ります。

③公共交通

- ・公共交通機関の通っていない集落については、市、交通事業者、地域コミュニティ及び市民が連携、協働し交通弱者に対する移動方法の確保を検討します。
- ・福江市街地を交通ハブとした効率的な運行を検討します。

④生活利便施設

- ・現在ある集落住民の日常生活を支える身近な生活利便施設の維持、継続のため、周辺集落も含めた人口維持が必要になることからその方策を検討します。
- ・生活利便施設等が集積している地区については、施設を維持するための方策を検討します。
- ・観光・交流の活性化にともなう、訪問者の利用による生活利便施設の存続や、観光交流施設の日常生活における利用など、相乗効果による日常生活の利便性の向上を図ります。
- ・集落住民の日常生活を支える生活利便施設の整備に関しては、持続可能な地域づくりをめざし、住民の協働により、地域の資源を活かし、住民が中心となって運営する「小さな拠点」づくりの考え方を取り入れた、施設整備等の検討を行います。
- ・渥美病院のある田原地域までの距離があることから、救急医療体制の充実を図ります。
- ・福江公園の整備を図ります。

⑤観光・交流

- ・伊良湖岬周辺の散策ルートやサイクリングコースの充実、誘導サインや案内マップなどの改善、漁港の活用、物販・飲食機能の強化などの観光整備を推進します。また、伊良湖フラワーパーク跡地については、渥美半島観光の顔として活用し、伊良湖岬周辺宿泊施設への吸引につながるような特徴的な施設開発の整備を検討します。
- ・道の駅伊良湖クリスタルポルトについては、トイレ環境の再整備、観光案内機能の充実、休憩所の改善等を順次実施します。また、市内の道の駅をネットワーク化することにより、道路利用者に休憩・情報等のサービスの提供や市内物産の紹介、販売等を行い、市内及び他地域との交流の促進を図ります。
- ・半島全体の風景を鑑賞しながら周遊できる「渥美半島菜の花浪漫街道」においては、風景、花の活用、サイン・標識なども含めた整備を図ります。
- ・農業を体験できる施設の整備を検討します。
- ・漁業や海産物を通じた観光・交流施策の推進を図ります。
- ・港の拠点化による観光・交流スポットの整備を図ります。
- ・温泉掘削の可能性、温泉活用ニーズ、温泉活用方策、費用対効果など様々な側面における検証を踏まえた上で、観光客向けの温浴施設開発の可能性を検討します。

⑥景観

- ・重点整備候補地区の福江城坂周辺については、港町の特徴をもった地区となるよう城坂周辺の趣きのある建物の保全と、建て替え時の建物のルール化により、歴史を感じさせる空間の形成を図ります。
- ・重点整備候補地区の伊良湖岬地区については、伊良湖岬、太平洋、伊勢湾、美しい島々の眺望景観の保全を図ります。また、自然と調和した集落内の景観の維持・保全を図ります。

⑦地震・津波防災

- ・住民避難を柱とした総合的防災対策（避難路や避難施設の整備）を図ります。
- ・緑の防潮堤や国道42号（堀切地区等）を活用した津波防護施設の整備を促進します。
- ・堀切地区と中山地区において人工高台（津波避難マウンド）の整備を図ります。
- ・防波堤や防潮堤、海岸堤防等の耐震化、嵩上げ、粘り強い構造への改良及び背後地整備等を図ります。
- ・伊川津漁港において、海岸防波堤等の改修整備を実施します。
- ・災害時に早期に復興できるよう、予め住民と協働でまちづくりに関する計画の策定を検討します。
- ・津波浸水想定区域において、敷地のかさ上げ、基礎構造への一定の基準を定めるなど土地利用規制・建築制限に関する施策を柔軟に組み合わせ、長期的な視点による緩やかな移転誘導の方策を検討します。

